01
2月 2015

よみがえり

全6page

by NCM2 CHOIR

この二週間、まるで、ヨブの苦しみを味わいました。我が家の猫、パフは毛が長く、いつも毛玉を一ヶ月に一度くらい吐いていました。

猫をご存知のない方に説明いたしますと、猫はセルフクリーニングの動物です。
自分で自分の身体を舐めてきれいにします。長い毛の猫はその時に一緒に身体の中に入ってしまう毛がたまって、時々吐いて出します。

よく猫が草を食べているのを見ることがありますが、それはそれを引き金にお腹の中の毛をきれいにしているのです。二週間前の日曜日、朝から吐いていたパフはいつもかたまりの長細い毛玉が出るのになかなか吐くことができませんでした。私たちが礼拝から帰ってきても吐いていましたが、もはや、唾液か胃液のようなものしか出ていないようです。

引っ越してから、獣医さんについたことがありません。急いで、インターネットで往診してくれるお医者さんを捜し、翌日来てもらい、その処置をしてもらいました。（猫は車に弱いので往診してくれるお医者さんだと助かるのです）ところが２日たっても依然として食べず、隠れて苦しそうです。最初の獣医さんからの指示でついに近くの獣医さんにレントゲンを撮ってもらいに連れて行かなければならなくなりました。

ところがレントゲンには何も出ず、かすかに炎症があるようだと言われました。次の段階はウルトラサウンドを撮るようにとのこと、毛玉だったらもうとっくに出ているはずだというのです。

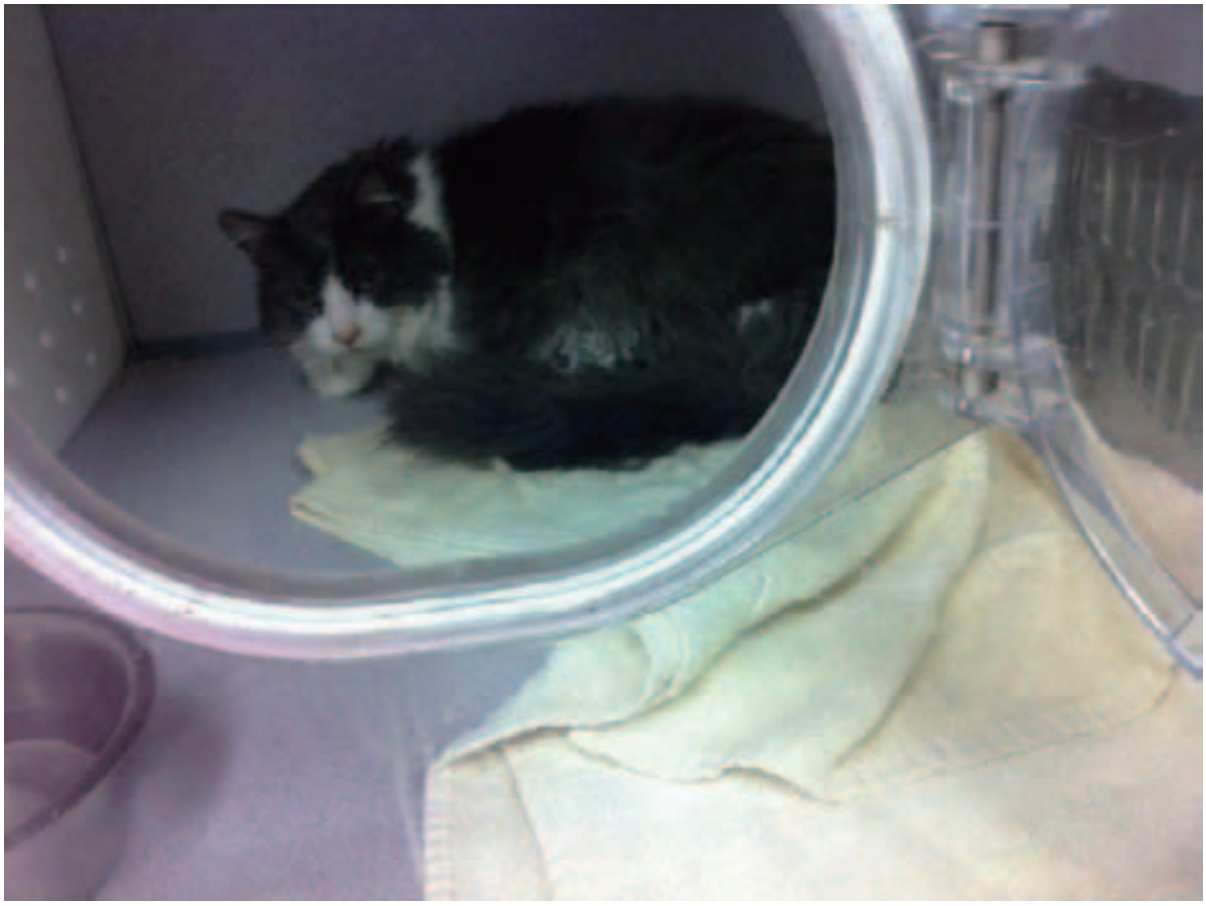
セカンドオピニオンをききに行ったほかのお医者では、癌かもしれないし、やはりウルトラサウンド※1を撮るようにとのこと、その間パフは何も食べず、飲まずただ苦しんでいます。

もちろん、スポイトで水をあげたり、医者に身体に水をいれてもらったりはしましたが。ついにウルトラサウンドを撮ったところ、大きな毛玉が腸を塞いでいるということで、すぐ手術のできる遠い病院につれていきました。

※1.... ウルトラサウンド (Ultrasound)... エコー検査や超音波検査と同意義

その夕方の手術は成功しましたが、一晩入院ということになりました。もう一週間が経っていました。私たちは気がきではありません。翌日曜日の朝礼拝前に病院から電話があり、手術は成功したけれど、その直前に吐いたものが肺に入って肺炎をおこし、呼吸困難なので、酸素タンクに入らなければならないというのです。

教会の帰りに見に行きました。
哀れな顔をしていましたが、私たちのことがわかるようでした。



翌日、３時ごろ、電話をすると、少し食べだしたので、その日に帰宅できるかもしれないといわれ、大喜び、酸素タンクから出すというのです。

迎えにいくと手術で取り出した、腸をふさいでいた毛玉を見せてくれました。

まだ呼吸困難で、ごろごろいうのとあいまって苦しそうです。自宅で抗生物質と痛み止めをあげるように、また呼吸困難がひどいようだったら、お腹の両側から肺を叩くようにと指導されました。

家に帰ると、まだまだ苦しそうです。でも一晩たつと、ようやく痛みがおさまってきたのか、寝ることができるようになりました。

でも食欲はまったくありません。パフが好きなのは、アスパラガスです。アスパラを茹でました。むしゃむしゃ食べだした時の、私と夫の喜びは何にもかえがたいものでした。

２、３日アスパラしか食べませんでしたが、自分で水を飲むようになり、今日になってネコ餌を食べだしたのです。また顔を舐めて毛繕いをし始めました。

蘇りです。
多くの方々にお祈りをお願いし、また私たちもどんなに癒しを祈ったことでしょう。
命が救われるということは猫でもこの喜びです。ましてや、人の命が救われるという事の喜びはかけがえのないものだということをひしひしと感じた２週間でした。

天におられる主なる神様は私たちがこの猫の命を案じた以上に 私たち一人一人の永遠の命を考えて痛みをおぼえていてくださるのでしょう。

「 神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。
独り子を信じる者が一人も滅びないで、
永遠の命を得るためである。　　ヨハネ 3-16 」

竹下弘美

折尾クリスチャンチャーチ
住所 〒807-0873
福岡県北九州市八幡西区藤原 2-12-6
電話＆FAX 093-692-9200（9:00～13:00）
メール oriochurch@outlook.jp